

# 民生産業常任委員会研修視察報告書

1. 実施日                   平成30年10月9日（火）～10月11日（木）
  
2. 参加者                   委員長           宮永 万里子  
                              副委員長       澁木 茂  
                              委員            中尾 大助  
                              委員            堀越 幸広  
                              委員            都丸 裕史  
                              委員            山口 将  
                              委員            森 昌彦  
                              事務局        金井 隆浩
  
3. 視察地                   新潟県長岡市  
                              長野県長野市  
                              長野県千曲市
  
4. 交通機関               貸切バス
  
5. 視察結果               別紙のとおり

◎視 察 地：新潟県長岡市

◎視察事項：まちなかに健康づくりの拠点「全国初のタニタカフェ」について

#### 【市の概要】

面 積：891.06 km<sup>2</sup>

人 口：272,882人（平成30年3月1日現在）

人口密度：306人/km<sup>2</sup>

日本一の大河・信濃川が市内中央を流れ、海と山に囲まれた自然豊かな場所。交通網が整備され、多種多様の産業が集積し、東京からも約1時間30分の高アクセスである。花火の街でもあり、毎年8月に長岡まつりが開催され、正三尺玉花火が上がる。また、平成17年の長岡まつりでは、市民などからの協賛金を募って、新潟県中越地震からの復興祈願花火「フェニックス」を打ち上げ喝采を浴びた。

世界的に見ても珍しい程の豪雪地帯であり、昭和56年1月21日の212cmなど過去に記録的な豪雪を何度も経験している。市街には雁木が整備されているほか、市では「無雪都市」を宣言し長岡駅前の手通りには雁木を改造した大規模なアーケードが設置されている。また、道路には地下水源を利用した消雪パイプが設置され、国道、県道、市道や公共施設の施設に至るまで広い範囲で散水消雪を行っている。地理的には大部分が盆地で占められており、冬は寒く、夏は暑い気候で信濃川流域には遮蔽物が少なく、夏には突風が吹くこともある。

平成24年にオープンした「アオーレ長岡」は屋根付き広場、アリーナ、市役所が一体となった複合型施設で「市民協働・交流の拠点」として自由で多彩な活用が広がっている。

#### 【視察調査事項】

1. 多世代健康づくり拠点整備（タニタカフェ）について
2. タニタカフェの機能について
3. なおおかタニタ健康クラブについて
4. 会員向けの健康づくりセミナーについて
5. まちなかまるごとタニタ食堂の実施状況について
6. 今後の展開について

## 【まとめ】

高齢化の進行に伴う介護や生活習慣病の予防が大きな課題として、健康な生活習慣を幼少から身につけ、青年期・壮年期の生活習慣病のリスクを軽減し、高齢者の介護予防に取り組むことで、健康寿命の延伸を図る事を目的として「多世代健康事業モデル研究会」を産官学連携で立ち上げた先進的な施策を実行していた。

国の補助金を受けて、全国的にも一躍ブームとなった「タニタカフェ」の運営と「ながおかタニタ健康くらぶ」にて活動量計を携帯してポイントを貯めて景品と交換できるなど、特に本町は、福祉担当、健康づくり担当、社協などの関係機関が密に連携している状態を確保しており、こういったチームの結成は容易であると感じた。高齢化は着実に進んでいる重要課題であり、取り入れて行くべき先進的施策が多くあったように感じた。

課題としては、長岡市は約891km<sup>2</sup>の面積があり、地域間の公平性をどう担保するのか？タニタカフェが何らかの理由で営業が困難になった場合に代替が現状はない状況である。また、導入しているヘルス機器が複数台で約200万円と高額であり、本町で導入する場合には、初期投資とランニングコストを抑えてどのような形で導入するかは留意検討が必要であると感じた。

◎視 察 地：長野県長野市

◎視察事項：認知症初期集中支援チーム事業について

#### 【市の概要】

面 積：834.81km<sup>2</sup>

人 口：378,006人（平成30年12月1日現在）

人口密度：453人/km<sup>2</sup>

長野県北部の中心都市で、善光寺の門前町として有名である。門前町としてのみならず、周辺の観光地への前線としても重要な位置を占める。1998年に長野オリンピック及びパラリンピックが開催され、メイン会場があった市である。全国47都道府県のうち最も高い位置（標高371.3m）に県庁の本庁舎がある県庁所在地でもある。全般に長野市は盆地に位置し、盆地特有の気候である為、寒暖の差が激しく夏は暑く、冬は寒い。特に北部は日本海側気候の豪雪地帯となる。

交通では、都市圏人口が約60万人で、車社会の一方で中規模地方都市としては公共交通機関を利用した通勤・通学が盛んであり、朝夕のラッシュ時には鉄道駅やバス停が混雑する。交通政策では「交通セル方式」の採用やコミュニティーバス（ぐるりん号）の積極展開などが特徴的な政策を持っている。

#### 【視察調査事項】

1. 認知症初期集中支援チームとは
2. 認知症初期集中支援チーム結成までの経過について
3. 認知症初期集中支援チーム員の構成について
4. 認知症初期集中支援チームの活動について
5. 認知症初期集中支援チームの効果について
6. 認知症初期集中支援チーム事業の今後の課題について

#### 【まとめ】

長野市では、認知症相談支援体制の充実として「認知症を正しく理解し、適切に対応できる環境づくり」と「専門的なサポート体制の強化」として「認知症初期集中支援チーム」が設置された。

高齢化は全国的に自治体での課題となっており、その中でも初期の認知症を自分自ら

が気づくことはほぼ有り得ない状況である。そこで長野市では「認知症初期集中支援チーム」を医師、保健師、看護師、社会福祉士などで構成して、家族やケアマネ、医療機関、その他などから依頼を受けた時点で、そのチームで訪問を実施して対象者の状態を確認し、必要と判断した場合は介護サービスの導入までをサポートする施策であった。

認知症の早期発見からその後のケアまで、更にその家族も含めた支援のカリキュラムも組み立てられており、包括的な支援が整っていた。

本町においても初期に支援体制を構築し、本人・家族を含めた支援を行うことは大変重要な意味があり、民生委員の声かけや地域での見守りと併せ本町では導入している初期集中支援チームの効果的な運用ができる様にしてゆく必要性を感じた。

◎視 察 地：長野県千曲市

◎視察事項：健康寿命延伸事業について

**【市の概要】**

面 積：119.84km<sup>2</sup>

人 口：59,544人（平成30年4月1日現在）

人口密度：497人/km<sup>2</sup>

長野県北信地域の南東部に位置し、平成15年9月1日に旧更埴市、旧埴科郡戸倉町、旧更級郡上山田町の1市2町が合併して、平成の大合併としては長野県で初めて誕生した都市である。総面積は約120km<sup>2</sup>で、西は冠着山、東は鏡台山をはじめとする山地に囲まれ、中央部には市名の由来にもなった幅約500mほどの母なる大河「千曲川」が流れ、その両岸には肥沃な台地が開けている。

この地には古くから多くの人々が生活を営んでおり、このことは東日本最大級といわれる四世紀後半に築造された国指定史跡「森将軍塚古墳」にみることもできる。一方、市内の東の裾野には、一目十万本といわれる「日本一のおんずの里」があり、西部の丘陵地には俳聖・松尾芭蕉が訪れた俳句の里でもある名勝「田毎の月」がある。さらに南部には、善光寺参りの精進落としの湯として愛され、親しまれている開湯百年を超える信州有数の「戸倉上山田温泉」など、いくつもの特色ある観光資源を併せ持つ、歴史と文化の都市でもある。

**【視察調査事項】**

1. 千曲市総合戦略の体系について
2. 健康寿命を延ばし高齢者の社会参加を高める施策について
3. 特定検診・特定保健指導事業について
4. ガン対策の推進について
5. 投入病性腎症重症化予防事業について
6. 健康サポート推進事業について

**【まとめ】**

高齢化率が30%を超える時代を迎え、高齢者の健康維持と社会参加は、地域の活力

を左右する重要な課題となっている。心身が健康で地域や社会に貢献するシニアの割合を高めるために、中高年層の生活習慣病や介護予防の活動と地域社会での活躍の場に創出できることを目的とした事業である。スポーツ振興、生きがいと社会貢献、特定検診や健康診断の企業連携、介護予防の実施などトータルの健康寿命延伸について事業として取り組んでいた。

また、あん姫いきいき体操を創作し地域や団体等で体操を普及する活動を実践するなど介護予防を図り健康寿命の延伸を目指していた。

本町も町独自の事業だけではなく、産・学・官・民・金・労・言からの意見やアイデアを取り込んでゆく方向性を感じた。